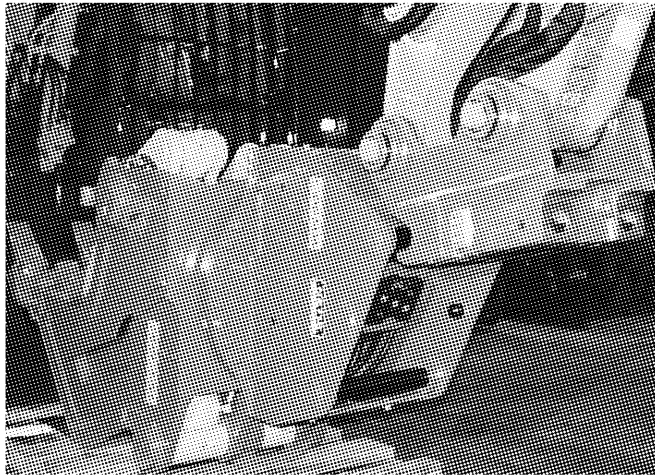


自動化を支える

オカダアイヨン



重機（右上）に取り付けた油圧オートカブラ（中央）とアタッチメント（左）の接続部

オカダアイヨンは解体工事に油圧用の油を供給する工事や林業の現場で、危険が伴う作業を自動化するニーズに応えている。解体や林業の現場では、建物や周辺環境によって作業方法が異なるため自動化が難しい。同社は重機に取り付ける破砕機などのアタッチメントの交換や、解体時の粉塵を抑えるための散水といった周辺の作業を自動化する製品を展開。現場の安全性と作業効率の向上に貢献している。

交換作業を自動化できるアタッチメントは、重機との継ぎ手であるカブラメントが必要のため、導

入にはコストがかかるのが課題。これに対し、岡本蔵執行役員総務部長は「急斜面での作業が多い林業では、特にニーズが強く認知度が上がっている。（重機台数が少ない）小規模作業のため導入しやすい。まず5〜10年以内に林業での普及を目指す」と道筋を示す。

一方、重機台数が多い大規模作業が特徴の解体現場向けには、従来型のアタッチメントの交換作業を自動化できる「SEカブラ」を提案し、普及が進んでいる。人手の作業は油圧ホースの取り付けのみで、作業時間は約60分を約10分に短縮できる。導入のしやすさが好評で、直近は3年連続で年200台以上を販売した。

今後、高さ50以上の高層ビルや耐久性が高い日本の建物などの解体に対応したアタッチメントについても、周辺作業を効率化できる製品を検討する。「アタッチメントも建物の特徴に合うように形を変えて対応していく」（岡本執行役員総務部長）方針だ。

解体や林業、安全に工具交換

作業現場の環境負荷も低減できる。ただ、専用のアタッチメントが必要のため、導

入にはコストがかかるのが課題。これに対し、岡本蔵執行役員総務部長は「急斜面での作業が多い林業では、特にニーズが強く認知度が上がっている。（重機台数が少ない）小規模作業のため導入しやすい。まず5〜10年以内に林業での普及を目指す」と道筋を示す。

一方、重機台数が多い大規模作業が特徴の解体現場向けには、従来型のアタッチメントの交換作業を自動化できる「SEカブラ」を提案し、普及が進んでいる。人手の作業は油圧ホースの取り付けのみで、作業時間は約60分を約10分に短縮できる。導入のしやすさが好評で、直近は3年連続で年200台以上を販売した。

今後、高さ50以上の高層ビルや耐久性が高い日本の建物などの解体に対応したアタッチメントについても、周辺作業を効率化できる製品を検討する。「アタッチメントも建物の特徴に合うように形を変えて対応していく」（岡本執行役員総務部長）方針だ。